

# 日事 る知 あの

茨城県知事  
橋本 昌



## ◎技能五輪・アビリンピック いばらき大会2009

十月二十三日(金)～十一月一日(日)

将来の日本を支える技能者の育成や技能尊重の機運醸成を図る「第四十七回技能五輪全国大会」、障害者の職業面での自立や社会参加の促進を目指した「第三十一回全国障害者技能競技大会（アビリンピック）」を、茨城県として初めて開催した。

全国から厳しい予選を勝ち抜いた若き技能者や障害のある方々総勢千二百五十人により、機械系、金属系、建設・建築系、サービス・ファッション系、情報通信系の職種など、両大会合わせて六十一職

種の部門で高度な技能が競い合われ、選手たちが競技にひたむきに取り組む真剣な姿に大きな感動を覚えた。



技能五輪全国大会開会式・選手宣誓

本大会では、十五万人を超える来場者と次代のものづくり産業を担うたくさんの子どもたちが見守る中、茨城県選手団も過去最大の五十八人が見事入賞を果たした。

茨城県が持つ技術力の高さを全国にアピールできたとともに、技能の素晴らしさや障害のある方に対する理解を深めるために大きな役割を果たす大会となった。

## ◎「茨城県庁羊かん」PR

十二月十四日(月)

本県を代表するメロンの生産地銚田市と郷土の銘菓を数多く手掛けている亀印製菓株式会社など関係者が、新商品「茨城県庁羊かん」

を販売することになり、そのPRに来られた。

茨城県庁羊かんは、県庁の土産品として何か作れないかと県庁生活協同組合と亀印製菓が共同開発したものである。生産量日本一の銚田市産メロンの果汁を二四％も使用した「メロン羊かん」と、産出額日本一の銚田市産紅あずまを一六％も使用した「芋羊かん」の二種類で、一箱四百二十円と手ごろな価格だ。保存料や着色料、香料を使用しておらず、素材本来の風味が生かされていて舌触りもよく、昼食を取った後だったが一切れ二



茨城県庁羊かん

切れと手が伸び、一箱の半分も食べってしまった。

また、パッケージには県庁舎や偕楽園、袋田の滝など県内の観光地の写真が使用されており、本県の観光地のPRにもなっている。職員や県民の皆さんには、この羊かんを持って是非茨城の魅力をPRしてもらいたい。私も、手土産は「茨城県庁羊かん」にしようかと思う。

◎茨城県原子力総合防災訓練

十二月二十一日(月)～二十二日(火)

本年は、JCO臨界事故から十年という節目の年に当たり、国との共催により原子力総合防災訓練を実施した。

鳩山総理大臣を始め各大臣にも参加いただき、首相官邸・県・東海村などを結んだテレビ会議により、原子力災害時における情報共有や応急対策の検討など、関係機関連携の下実践的な訓練を行うことができた。

本県では原子力施設立地地域の周辺に人口が集積しているため、昨年度から自家用車による避難訓練を取り入れている。本年は高速



自家用車による避難の様子

道路を利用した国営ひたち海浜公園からの遊客者帰還や、体の不自由な方などの自家用車による避難、幹線道路の交通規制など新たな訓練も試みた。

防災ヘリで上空から避難が円滑に進んでいる状況を確認するとともに、避難所を回り参加者などからご意見をうかがった。

地域の皆さんには、今回の訓練に参加いただき、原子力防災の重要性を再認識していただけたと思う。今後ともJCO臨界事故の教訓を風化させることなく実効ある訓

練を実施し、地域の方々の安全を確保していかなければならないと感じた。

◎いばらき創り1000人委員会提言集会

言集会

十二月二十二日(火)

県政全般にわたる幅広い意見や提言をいただくため設置されている、「いばらき創り1000人委員会」の提言集会が開催された。

この委員会は、それぞれに活動している「明日の茨城を考える女性フォーラム」、「明日の地域づくり委員会」、「いばらき青年懇話会」など県民の皆さんにより構成される各種委員会の総称で、私が知事に就任して間もない平成六年に組織したものである。

今年度の集会では、「明日の茨城を考える女性フォーラム(第十期)」委員五十人から、県施策の勉強会、意見交換会などを積み重ね、二年間かけてまとめ上げた七十七項



いばらき創り1000人委員会提言書の提出

目に及ぶ県政に対する提言を、約二百五十人の参加者を前に発表していただいた。「福祉・医療」「生活・環境」「教育・文化」「産業・経済」「交流基盤」の五つの部会ごとに寸劇や映像などを交え工夫を凝らした発表が行われた。

茨城を良くしようと真剣に考えている委員の皆さんの姿から、「人が輝く 元気で住みよい いばらき」の実現に向けて県民の皆さんと共に頑張っていかなければならないとの思いを強くした。